博士学位論文審査等報告書

審査委員　主査　大場　修
副査　内田保博
副査　佐藤仁人

1　氏名
林　依蓉

2　学位の種類
博士（学術）

3　学位授与の要件
京都府立大学学位規程第３条第３項該当

4　学位論文題目
台湾原住民タロマク族における遊び仕事研究

5　学位論文の要旨及び審査結果の要旨
【学位論文の要旨】
別紙に記載

【論文目録】
別紙に記載

【審査結果の要旨】
本論文は、台湾原住民族タロマク族が現在も継承している植物利用・狩猟・石板屋再建運動を「遊び仕事（マイナー・サブシステンス）」と捉えてその実相を解明し、伝統的な生活文化における遊び仕事の意義を明確にした研究である。

本研究により、タロマク族の植物利用行動は市場経済と繋がる「労働」ではなく「遊び仕事」としての精神性･社会性を内包することを明らかにし（第2章）、伝統的狩猟文化については、100年間の推移と時代ごとの様態を明らかにして、戦前・戦後へと継承された伝統的狩猟文化が、地理的・文化的差異を越えて、娯楽性、象徴性、精神的共同性などの「遊び仕事」としての特質を有する生業活動であることを明らかにした(第3章)。また、タロマク族の伝統的狩猟の実態観察を通して、狩猟が技能・技術向上の場であり、喜びや誇りの源泉でもあり、部族コミュニティの絆を維持するための共同体的規範や､部族特有の自然観･信仰観を共有する精神的､社会的､象徴的価値をも包含する場として重要であることを明確にした（第4章）。

さらに、石板屋を建てることは、エスニック・アイデンティティの表象であり、生活の楽しみや幸福感を生み出す「遊び仕事」として意義付けられ、故に石板屋は民族自立の象徴的存在でもあることを明らかにした。加えて石板屋再建運動が、民族の精神や誇りを次世代に伝えていく教育・研修の場であることも示唆した（第5章）。

本研究は、以下の点で学術的価値が高いと判断された。

台湾原住民の植物利用、狩猟採集活動、石板屋の建設については、民俗学、社会学、建築学など広範な分野における蓄積がある。これらは「伝統的習俗」という従来的視点と評価軸に基づくアプローチとして総括できる。これに対し本研究は、長期間の実態観察を通して、この種の諸活動を精神的社会的な「遊び仕事」として捉え直し、再評価した点に特徴がある。

本研究独自の視点設定によって、原住民の諸活動は、単に伝統の継承に止まらずエスニック・アイデンティティの基盤であることを明確にした。しかも彼らの行動は、民族自立運動や教育・研修的実践という自覚的な取組みであることを明示した点も、新規性の高い成果として評価できた。

本論文の意義は、「遊び仕事」研究の進展という点でさらに大きい。「遊び仕事」を「単に消滅しても構わない副次的生業」と捉えてきた従来の定義に対して、「必要不可欠な副次的生業」であるとし、「遊び仕事」が「民族の誇り」「精神的共同性」という価値意識の基底をなし、民族自立運動の源泉でもあるとする本研究の結論は、「遊び仕事」の従来の概念を押し広げることに成功している。「遊び仕事」研究を標榜する本研究最大の成果は、この点にあると評価した。

以上より、本論文は博士論文としての要件を満たしているとみなした。

6　最終試験の結果の要旨

本論文の内容は公開発表会（2019年2月18日（月）午後1時～2時、稲盛記念会館1階106講義室）にて、本学科教員・学生に他学科教員も交え発表された。30分間の発表の後、30分間の質疑応答が行われた。

主な質疑内容は、調査・分析方法の客観性、民族文化復興の上で環境教育の意義、環境と共生する狩猟等のあり方、本研究がデザイン学分野へどのように貢献するか、等多岐にわたった。

申請者の質疑に対する応答は、豊富なフィールドワークに裏付けられた申請者の研究課題に関する十分な知識を窺わせた。

別途行われた主査・副査による約2時間に渉る審査会においても、申請者が博士号取得に十分な業績と資質を有すると評価された。

以上、最終試験の結果は、公開発表会および審査会の結果を踏まえ、審査員全員一致で合格とした。

以　上